

8 岐阜市薬用作物栽培協議会（岐阜県岐阜市）

産地の概要



品 目

キキョウ、カワラヨモギ、ジオウ

栽培面積

計114.5a（キキョウ 24.9a、カワラヨモギ 43.9a、ジオウ 45.7a）
（令和6年4月時点）

栽培戸数

8戸

取組体制

岐阜市薬用作物栽培協議会（生産・出荷）
JAぎふ薬用作物生産部会（販売）
岐阜市（関係機関との調整、各種補助金（栽培面積に応じて助成等）、岐阜薬科大学との連携）

【協力機関】岐阜農林事務所、公益社団法人東京生薬協会（以下、東京生薬協会）
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所（以下、基盤研）

特 徴

東京生薬協会、基盤研及び岐阜市の3者で薬用作物栽培促進についての連携協定を締結。休耕田を活用して栽培

取組の背景

岐阜市では、奈良時代の歴史書である「日本書紀」の記述により、「美濃の国」ぎふが「製薬業発祥の地」と言われている歴史的背景から、平成26年度に薬用作物の産地化について有効性・市場性の調査を開始。その後、薬用作物の栽培に賛同した8事業者（生産者）により、平成27年1月に岐阜市薬用作物栽培協議会を設立し、平成27年3月27日に東京生薬協会、基盤研及び岐阜市の3者で薬用作物栽培促進についての連携協定を締結した。



▲キキョウの移植作業

品目選定理由

平成26年度に実需者に対して実施したアンケート調査の結果を踏まえ、平成27年5月から、12品目の栽培を開始。翌年からは栽培状況を踏まえ8品目に絞り込んだ。採算性と取引先の有無などの理由から、現在は、キキョウ、カワラヨモギ、ジオウの3品目を栽培している。

課 題

- ・水田を利用しているため、水はけが悪い。 ・除草・加工・調製に非常に手間がかかる
- ・乾燥機を使用するため電気代が高騰し、生産コストが増加する
- ・局方試験の基準をクリアできなかった場合、出荷できない

主な取組内容

①種苗

- ・キキョウ、ジオウについては連携協定に基づき、基盤研から種苗の分譲を受け、以後は、圃場で栽培したものから採種・選別し、種子を確保
- ・ヨモギについては、長良川で自生していたものを採取し、岐阜薬科大学で鑑定を受けたものを使用



▲カワラヨモギ

②栽培管理

- ・連携協定に基づき、東京生薬協会から栽培指導員の派遣を受け、岐阜市薬用作物栽培推進協議会の構成員の事業者（生産者）に対する勉強会や栽培指導を実施
（令和5年度実績：年5回）

③加工・調製

- ・JAぎふが県の補助事業を活用し、掘取機、色彩選別機、乾燥機、洗浄機、乾燥用ハウス1棟を導入し、生産者で構成する生産部会に対しリースを実施



▲ジオウ

④集出荷

- ・JAぎふ薬用作物生産部会へ出荷し、実需者へ販売

成 果

【取組による定量的な成果】（3品目合計）

薬用作物面積拡大 H30：42.6a → R5：114.5a

今後の展開

- ・各品目について、事業者の生産能力に見合った栽培面積を模索しており、今後も販路の開拓と生産者数の拡大を図り、産地化を目指す